

令和2年度 県立土浦第三高等学校自己評価表

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性や自立心を伸ばし、「生きる力」や「豊かな心」を育み、社会に貢献できる人材を育成する学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>「文武両道」を推進するとともに、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた心身ともに健全な人材の育成を目指して全職員が一丸となって教育活動に取り組み、しっかりと進路実績を残すことができた。</p> <p>今後もさらに実績を残し、地域社会からの期待と信頼に答えることができるようなお一層努力する。</p> <p>校務分掌の見直しや部活動の在り方を検討し、働き方改革を推進に努める。</p>	<p>確かな学力の育成を図り、自らの力で未来を切り拓く知性や教養など、活用できる能力を養う。</p>	<p>① 確かな学力の定着を図り、国公立大学及び難関私立大学への進学の実績をさらに伸ばす。</p> <p>② 学習意欲の高揚に努め、自発的学習の習慣化と家庭学習の確立を図る。</p> <p>③ 個別面談及び保護者面談を充実させ、個々の学校生活の目的や進路希望を明確にし、自己実現に向け主体的に取り組む態度を育成する。</p> <p>④ 年間指導計画の見直しと検討を重ね、思考力・表現力の育成を図る授業の実践に努める。</p> <p>⑤ 進路希望の実現に向けた課外活動の充実を図る。</p> <p>⑥ 生徒の個々の興味や関心、適性等に応じた進級時の適切なコース選択を実施する。</p> <p>⑦ 商業関係学科において、専門科目の学習内容の充実を図り、資格取得の実績向上と進路実現を目指す。</p>	B
	<p>文武両道を推進するとともに、様々な体験や学習活動を通し、心身ともに健全で豊かな人間性を養う。</p>	<p>① 特別活動等の充実を図り、活力ある学校生活の創造に努めるとともに、調和のとれた生徒を育成する。</p> <p>② 生徒の規範意識を確立し、本校生としての自覚とマナーを心得た生徒を育成する。</p> <p>③ 道徳教育を推進し、人間としての生き方や在り方に関する指導の充実により、豊かな人間性・社会性を身に付けさせる。</p> <p>④ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図るとともに、様々な学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。</p> <p>⑤ 校外活動やボランティア活動への積極的参加を推進し、社会において必要な実践力を育成する。</p> <p>⑥ 文武両道を推進し、知育、徳育、体育のバランスのとれた学校運営を実践する。</p>	B
	<p>キャリア教育を充実し、望ましい職業観や勤労観及び社会性を養い、将来の夢や希望の実現を目指す。</p>	<p>① 生徒個々の自己理解と職業に対する意識の高揚を図り、希望や適性に応じた進路実現のための確かな支援を行う。</p> <p>② 生徒の主体的な進路選択及び目標達成を支援するため、進路相談・学習相談・就業体験の充実を図る。</p> <p>③ 就職試験や面接試験対策等の充実を図り、将来的な生活設計の基盤づくりを充実させる。</p> <p>④ 適切な進路指導実践のため、本校の現状分析や教員の研修機会を充実させる。</p> <p>⑤ 探究的な学習を通して課題発見・解決能力の育成を図り、希望進路の実現を目指す。</p>	A
	<p>普通科と商業関係学科の併設校として、地域に信頼される学校づくりを目指す。</p>	<p>① 普通科・商業関係学科それぞれの進路目標の実現に向けた授業内容の充実および関係機関との連携に努める。</p> <p>② 学校のさらなる発展に向け、学校評議員・保護者・地域住民等からの情報や意見を聴取し学校運営に活用するとともに、地域の関係機関との連携強化を図る。</p> <p>③ 中学校訪問を実施し、本校理解の推進を図る。</p> <p>④ 保護者や地域住民との情報交換を密にし、相互理解と協力体制の確立を図る。</p>	A
<p>働き方改革を推進し、働きやすい健康な学校づくりを目指す。</p>	<p>① 各校務分掌間の連携や行事の精選を実施し、在校時間の短縮を図る。</p> <p>② 休暇の取りやすい環境作りに努める。</p> <p>③ 保護者や地域住民への情報公開により、現状理解と協力体制の確立を図る。</p>	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	生徒が自ら学び、意欲的、主体的に学習活動に取り組む授業を目指す。	授業内容を充実させるため、事前の教材研究を十分に行う。	A	A 動画配信等のオンライン授業への対応を強化する。自ら学ぶ姿勢の育成と、さらなる授業の質の向上を目指す。	
		授業ごとに、生徒が進んで学習できたかどうか指導内容を振り返り、授業の工夫改善に努める。	B		
		進路希望に応じた学習指導の実践と授業の質的向上を目指す。	A		
教科	国語	基礎学力の向上及び言語能力の育成を図る。	A	A 対応力が問われるオンライン授業・動画配信等の展開を目指して、ITスキルを向上させる。また、科において評価方法の確認を図らねばならない。	
		教材について理解の深化を図る。	B		
		表現力の育成を図る。	A		
	地理歴史	基礎学力の向上と進路目標の達成を図る。	学力の向上と家庭学習の定着を図るため、休業中の課題の工夫をはかる。	B	B 授業内容を精選し、生徒が主体的に取り組めるよう授業展開を工夫する。また、共通テスト対策などを実施する。
		地歴科への興味・関心を高める。	普通科・商業に関する学科それぞれの特徴に応じ、他教科との関連の中で授業内容の精選を行う。	B	
		副教材や地図・プリントなどを活用し、身近なところからテーマなどを取り上げる。	A		
	公民	基礎学力の向上を図る。	プリントやワークを用い、作業学習や反復学習などを行う。	B	B 社会生活への関心を高め、共通テスト対策の授業などを実施する。
		公民科への興味・関心を高め、主権者としての自覚を高める。	新聞その他の時事問題をテーマとした集団学習を行い、多面的に学習意欲を喚起する。	B	
		副教材やプリントなどを活用し、身近なところからテーマなどを取り上げる。	A		
	数学	基礎的・基本的な知識・技能の習得と学習意欲の向上を図る。	小テストや課題を実施して家庭学習習慣の確立と、基礎学力の定着・向上を図る。	A	A オンライン授業の展開や、動画配信などの必要性も視野に入れ、ITスキルの拡充を目指す。また、それに伴う課題の提示方法や評価方法などの見直しを図る。
			授業において、数学と生活との関連のある事例・問題を提示し、数学の有用性や良さに気づかせることで、数学に対する関心や意欲を高める。	A	
		生徒の実態に応じた指導と充実した授業展開を工夫する。	副教材やプリントなどを活用するとともに、課外や補講等の実施や定期考査の問題の精選を図る。	A	
			新課程の授業展開や教材研究、前年度の事例等の情報交換を充実させる。	B	
	理科	教授内容をより深く理解できるように授業展開を改善・工夫していく。	意欲的に学習活動が行えるよう、授業の進め方や説明および発問方法について工夫するとともに、新たな教材・教具を開発する。	A	A 休校中の動画配信の経験を活かし、次年度はさらにICTを活用し生徒に興味関心を抱いてもらえるような授業を継続していきたい。
			個々の授業内容に即したプリント・課題等を準備し、基礎学力の定着を図るとともに、大学入学共通テストにも対応できるような授業を展開する。	A	
自然科学のすばらしさを実感できる授業の実施に努める。		自然科学(物理、化学、生物、地学)に関する研究の科学史等に触れながら、より興味関心の持てる授業を展開する。実物や実際の現象を見ることができるよう効果的な実験観察を実施する。	A		
保健体育	運動の楽しさや喜びを味わうことができる授業を展開する。	基礎・基本的な技能を身につけ、各運動種目の特性に触れることで、運動に対する学習意欲の向上を図る。	A	A 新型コロナウイルスが感染拡大する中で、最大限感染防止策に努め、その中でできる運動を通し、生徒が運動する喜び・楽しさを味わい、かつ仲間との協力・教え合いや助け合いの態度を育む授業展開を目指す。	
	体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度や、互いに教え合う能力を養う授業を展開する。	仲間と互いに励まし合いながら運動することによって、運動量の確保・体力の向上を図る。さらに、試合において定められたルールを遵守する態度の育成を図る。	A		
	健康・安全について理解を深めることができる授業を展開する。	身近な話題や様々な視覚教材を工夫し、集団や個人の健康を理解させ、生涯を通じて自らの健康を適切に管理・改善していく実践力の向上を図る。	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 科	芸 術	芸術を愛好する心情を育てる。	幅広い活動を通して芸術への関心を高め、主体的な学習態度の育成を図る。	A	A ・新型コロナウイルスに対する感染防止を図りながらの実習に努める。 相互鑑賞を工夫し、鑑賞指導の充実を図る。
			多様な表現の工夫ができるよう、基礎的・基本的な技術の習得を図る。	A	
			授業や学校行事、各種コンクール等への参加を通して、発表の場をつくと共に鑑賞の能力を高める。	A	
		美的体験をより豊かに味わえるように、授業の改善に努める。	授業内容の充実を図るため、教材研究や事前準備を十分に行う。	A	
			教員自らが常に芸術的な資質の向上に努める。	A	
			教科内での連絡を密にし、授業における問題点等を話し合う。	A	
	外 国 語	基礎学力の向上と定着を図る。	ICTの効果的活用、授業改善および教材・課題を工夫する。	A	A ・社会状況を考慮し、オンライン授業への対応力を高める。 ・共通テスト対策を充実させ、英語4技能をバランスよく育成する。 ・外部検定試験に対する積極的な取り組みとスコアアップを支援する。
			基礎学力の定着を図るための小テストや課外授業を実施する。	A	
			教室外での英語の使用を促すような課題を設定する。	B	
			ALTの効果的活用を行う。	A	
		コミュニケーション力を育成する。	外部英語検定試験等の受検を支援する。	A	
			ALTを活かした英語運用力および論理的思考力を育成する。	B	
	異文化理解・国際交流事業を推進する。	コミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための授業展開の研究を行う。	A		
		異文化理解を促すための授業展開を工夫する。	A		
	家 庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身に付ける。	家庭生活への興味・関心を引き出す教材の活用により、深い学びにつながる授業を工夫し展開する。	A	B ・新型コロナウイルス感染防止を図りながら、生徒の学びを止めないための実習確保、主体的・対話的な授業の展開に努める。
			主体的・対話的な学習活動を通して、持続可能な社会の実現に向けた実践的な態度の育成を図る。	B	
		作品の完成・提出により達成感を持たせる。	実験・実習などを通して自立した生活者に必要な各種技能・知識の向上を図る。	B	
	情 報	情報に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させるとともに、問題解決能力の向上を図る。	現代の情報化社会で生き抜く力を育むよう、情報モラルに関する指導を充実させ、知識の向上を図る。	B	B ・生徒が自ら学ぶ意識を高める授業を充実させる。
			コンピュータの基礎的な操作の定着を図り、問題解決型学習の充実を図る。	A	
			言語活動の充実を図り、グループ活動等を取り入れるなど、生徒が自ら学ぶ意識を高める授業を充実させる。	B	
商 業	基礎的・基本的な知識や技術の定着と向上を図る。	課題等の提出を通して生徒一人ひとりの学習到達度を把握するとともに、個々の学習到達度に応じた指導を工夫し、確実な学力を身に付けさせる。	B	B ・家庭学習は検定前には行っているようであるが、普段から習慣づけられる指導を工夫する。また、家庭学習の質についても向上するよう、授業での指導を検討する必要がある。 ・生徒の潜在能力をどのように引き出し、進路実現につなげるかを研究する。	
		基礎的な知識や技術の定着を重点に置き、資格取得に関する指導とのバランスを図る。	A		
	各学年・部等との連携を図る。	選科指導、進路指導、課外授業等を実施するに当たり、定期的に会議等を実施し、効率的な指導内容の研究・実施に努める。	A		
		言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成を図り、能力・適性・興味・関心、進路の多様化に対応した指導研究を充実させる。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	学力の向上や希望進路の実現に結びつく教育課程の編成や運営を行う。	教育課程の点検を実施し、生徒の学力を向上させ進路実現に結びつく創意に満ちた教育課程の編成を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度に向け、進路実現に結びつく、特色有る新教育課程の編成を行う。 ・行事の精選を図り、学校・教科等と連携をし、授業の質的向上と充実した学校生活を目指す。 ・各種面談等を通して、生徒ひとりひとりの学習や進路に対する意識の高揚を図る。 ・様々な機会を利用して、本校の特徴や教育活動を発信し、本校理解の推進を図る。 ・日常業務の円滑な実施に向け、さらなる教育環境の整備に務める、特にICT環境の整備に向け動いていきたい。 ・緊急な事態にも迅速に対応できるような体制整備をしておきたい。(コロナウイルス感染対応等)
		授業時間の確保と学校行事の調整を行い、授業と学校行事の効果的な実施を目指す。	B	
	全学年で共通に実施できる学習体制の構築を図る。	朝学習や放課後課外、検定課外等の調整を行い、主体的に参加できる学習時間の確保に努め、学力向上に繋げる。	B	
		学科及び学年の特性を踏まえ、定期考査並びに課題・実力考査を適切に計画実施し、学習意欲の高揚に努めるとともに確かな学力の定着を図る。	模擬試験や検定試験等も視野に入れた授業を展開し、希望進路の実現に向けた学力の向上を図る。	
	生徒及び保護者面談の充実に努める。		個人面談を通して生徒の学習や進路への意識を高め、学習習慣の定着や受験を目標とした学力の向上を図ることにより、一人ひとりの生徒に充実した学校生活を送らせる。	
		保護者面談により生徒の学校や家庭での生活や進路希望等について家庭との連携を図るとともに、生徒の進路実現に必要な情報を提供し、家庭においても学習や進路意識の向上を図る。	B	
	本校の目指す教育活動の広報に努め、積極的な情報提供を図る。	中学校への訪問や学校説明会・公開授業等において本校の教育活動を公開することにより、普通科と商業関係学科の併設校として魅力を発信し、より一層の本校理解の推進を図る。	B	
		充実した学校生活をイメージさせる学校紹介パンフレットを作成する。	B	
		ホームページを活用し、本校の特徴や最新情報を積極的に公開する。	B	
	日常業務の円滑な実施に努める。	コンピュータやネットワークの環境を整え、管理・運営を適切に行う。	B	
新公務支援システムを円滑に運営できるよう研修を適切に行う。		B		
生徒指導	規範意識の向上を目指す指導を実施する。	登校指導を教職員全員で年間を通して実施し、きちんとした身だしなみを徹底させるとともに、遅刻防止、挨拶の励行にも努めさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・放送での全校集会における注意喚起のあり方。 ・モラル意識とコンプライアンスの高揚 ・交通事故ゼロ ・問題行動の未然防止 ・生徒支援の充実
	生徒が健康で安全な生活が送れるように努める。	交通講話、交通指導等により交通マナーを向上させ、事故の未然防止にもつなげる。	B	
		段階的指導、学校内外の巡視を通じ、自己指導能力の向上と問題行動の未然防止に努める。	B	
	授業や講話を通じ、薬物の怖さを認識させ、問題行動の未然防止につなげる。	A		
教育相談の体制を充実させ、健康に不安がある生徒の支援に努める。	各学年と連絡を密にし、健康に不安がある生徒の掌握に努める。保健厚生部とも連携し、教育相談等により生徒の不安を解消するための支援に努める。	A		
進路指導	生徒一人ひとりの進路実現を支援するキャリア教育体制の確立を図る。	各学年の適切な時期に進路研究や進路説明会を実施することによる生徒の進路意識の高揚を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染対策に留意し、適切な時期に進路関係情報を生徒・保護者に提供する。 ・生徒が主体的に進路研究に取り組み、進路実現に向けて高い目標を早めに設定できるよう支援する。
		最新の進路データ・資料等を利用したホームルームを展開する。	B	
		各学年や他の分掌と連携したキャリア教育を推進する。	B	
	個別指導による進路指導の充実に努める。	個別面談による進路研究支援と学習支援を実施する。	B	
		進路希望別進路ガイダンス及び特別講座等並びに表現力養成講座及び面接・小論文対策を実施する。	B	
	学力向上のための支援をする。	課外授業・模擬試験の充実に努める。	B	
	就職支援の充実に努める。	就職セミナー等を実施するとともにインターンシップ制度の充実に努める。	B	
教員の進路指導力向上を図る。	教員研修に役立つ情報等を提供する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	部活動の活性化に努め、実績の維持・向上を図る。	部活動を通して健全な体力と社会性を育成し、協調と連帯の精神を養うようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での新しい学校活動をどのように行うか考える。 ・特活部内の連携を密にする。 ・生徒が主体的に活動できるよう支援する。
		部活動の環境を整えながら、より一層活発な活動が行われるようにする。	B	
	生徒会活動や各種委員会活動の活性化に努める。	生徒会活動や委員会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員として学校生活づくりに自主的に取り組む態度を育てる。	B	
		ホームルーム活動や学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。	B	
	ホームルーム活動や学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。	ホームルーム活動の時間を活用し、豊かな心の教育を充実させる。	B	
		学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、学校生活を築こうとする自主的な態度を育てる。	B	
キャリアパスポートの効果的な活用を図る。	自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返る態度を養う。	B		
	自身の変容や成長を自己評価できるようにする。	B		
保健厚生	保健管理・保健教育を充実させる。	生徒が心身の健康に関心を持ち、常に自らの生活状況を見つめ、自ら健康の保持増進を図れる姿勢を身につけさせる。心身の健康に配慮が必要な生徒について教職員間で共通理解を図り、必要な配慮を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き政争の徹底を図り、学習環境の整備に努める。 ・コロナ禍における生徒の健康状態を把握し、体調不良の生徒の適切な処置をする。 ・生徒の安全確保に十分留意する。
	環境美化につとめ、安全で快適な教育環境を整えられるよう組織を編成する。	清掃状況を定期的に点検し、適切な指導を行うことにより清掃の徹底を図る。清掃用具等の補充・交換を円滑に行う。新校舎での生活環境の整備に努め、より快適な生活ができるようにする。	B	
	防災意識の高揚に努めるとともに、避難計画の職員・生徒への周知徹底を図る。	HR等を利用して、生徒の防災意識を高める。火災や地震等において、安全かつ速やかな行動ができるよう避難訓練を計画実施する。教職員の協力体制を確立し、保護者や地域との連携を図る。	B	
	個に応じた支援体制の充実を図る。	他の分掌、学年とも緊密に連絡を取り、教職員全体の協力体制を確立する。保護者や外部機関との連携を図る。	B	
図書視聴覚	図書館の環境整備に努め、学習・読書活動の支援につながる図書資料の充実を図る。	図書資料を適切に配列し、利用しやすい環境を整える。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科や分掌と更なる連携を図り、選書および資料の更新を効果的かつ迅速に行う。 ・読書週間および資料活用力を身につけさせる。
		各教科・分掌等と連携し生徒のニーズに合った資料収集に努める。	C	
	生徒および職員の積極的な図書館利用を促す。	生徒図書委員会と協力し、生徒にとって親しみやすい図書館作りに努める。	B	
		図書だより等の印刷物や掲示物を工夫する。	B	
行事等での放送を円滑に行う。	図書委員会活動の活性化を図り、生徒にとって親しみやすい図書館作りを行う。	B		
渉外	PTAの各行事の内容充実に努め、保護者への積極的な参加を呼びかけことにより家庭との連携を密にする。	PTA総会・支部会などへの参加を積極的に促し、内容や資料の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA各行事の内容の充実と、保護者の積極的な参加。
		生徒の学校生活に保護者が接する機会として、授業見学や登校指導を計画する。	B	
		学校の教育活動への理解や支援を得るために、PTA広報紙「岩田ヶ丘」を年2回発行する。	B	
		会員相互の理解と親睦のために、「PTA親睦会」や「PTA研修」などを実施し、PTAの組織の充実と結束を図る。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1 学年	学習環境の整備と希望進路の実現に向けた指導を推進する。	明るく、何事にも意欲的に取り組むことができる環境を作る。	B	B ・基礎学力の定着に向けて、朝学習や課題、課外の充実につとめたい。 ・学校行事や部活動などの機会を増やしたい。 ・進路学習について、職業・学校探求を深め、早めの進路決定を促せるようする。そして、学習のモチベーションにもしたい。 ・挨拶や適切な言葉遣いや態度をとれるようにすることに加え、コミュニケーションの能力を高めたい。 ・生徒についての情報を共有し学年全体でのサポート体制を維持したい。
		自身の将来像をしっかりと見据え、進路実現ができるよう支援する。	B	
		礼節を重んじ、社会貢献ができる人間形成を目指す。	B	
	基本的生活習慣の早期確立を図る。	規則正しい生活習慣を身につけさせる。	B	
		きちんとした挨拶や適切な言葉遣いや態度をとれるよう常に意識させる。	A	
		時間を守り、有効に使う習慣を定着させる。	A	
	学習習慣の定着を図る。	毎日の授業にしっかりと取り組み、基礎学力を着け、家庭学習習慣の定着を促す。	B	
		面談や講話等を通して、学習・進路に関する情報を効果的に発信し、目的意識を高める一助とする。	B	
		朝学習、放課後の課外により、基礎学力を定着させ、発展的な学習へと結びつける。	B	
		休校期間中は、オンライン教材や課題などを活用し生活の安定と学力の維持につとめる。	B	
	進路の適切な導きを図る。	進路に対する高い目標を掲げ、その実現に向けて継続して努力させる。	B	
		希望進路や自分の適性にあった分野を選択させる。(普通科)	A	
道徳教育の充実に努める。	希望進路や自分の適性にあった科を選択させる。(商業に関する学科)	A		
	自己理解や他者理解を深めつつ、人間としての生き方について考えさせ、豊かな心と生きる力を養成する。	B		
	視野を広げ、他者との協調性を高め、社会に貢献できる人間の育成を図る。	B		
第2 学年	学年目標の達成を目指し、さらに進路実現のための指導を進める。	明るく何事にも意欲的に取り組むことができる環境を作る。	B	B ・修学旅行はコロナ対応のため実施せず、評価なし。 ・最終学年として、また社会人になる自覚と適切な行動を促す。 ・希望進路の実現に向け、努力させる。 ・新型コロナの状況をしっかりと判断し、柔軟に対応できる環境を整える。
		自身の将来像をしっかりと見据え進路実現出来るよう支援する。	B	
		礼節を重んじ社会貢献出来る人間形成を目指す。	A	
	基本的生活習慣の確立・発展させ、自立した社会人の育成を図る。	自立した大人としての自覚を持たせ、規律ある行動を求めると共に、学校生活に意欲的に取り組ませる。	A	
		保護者との連携を密にしなが、服装・頭髪指導及び欠席・遅刻指導の徹底を図る。	A	
		修学旅行をとおして、平和への意識、社会とのつながりを意識させ、社会性の育成を図る。		
	学習習慣の定着を図る。	徐々に生徒会活動等の中心になることの意識を高め、責任感を持たせる。	B	
		面談を通して、効果的な学習方法を提案し、家庭での学習習慣の定着を促す。	A	
		授業や集会等を通して、学習・進路に関する情報を効果的に発信し、目的意識を高める一助とする。	B	
		朝学習、状況に応じて課外等を実施することにより、基礎学力を定着させ、発展的な学習へと結びつける。	A	
	進路の適切な導きを図る。	スタディサプリを活用し、自学のできる環境整備を整え、家庭学習効率の向上を目指す。	B	
		一人ひとりの進路実現に向け、適切な目標設定をさせ、目標に向けた道標を構築させる。	B	
進路実現に向け、学力の向上・資格等の取得するなど3学年に向けた準備意識を向上させる。		A		
第3 学年	進路実現に向け、希望進路に応じた学習指導を行う。	教員側の適切な情報収集をしっかりと行い、生徒たちへの的確な情報発信を行う。	B	A ・学校の教育目標を踏まえ、生徒たちの希望を叶えるための、3年間を通した指導計画の充実。 ・各学年と各校務分掌との連携の充実と方法の検証。 ・休校時の学習の保証。
		生徒が希望する国公立大学と難関私立大学への進学をあきらめずに達成できる実績の向上を目指す。	B	
		共通テストや私立大学・国公立2次試験にも最後まで対応しうる学習指導を行う。	B	
		課外授業の充実を図る。普通科においては受験科目を考慮し、商関科では検定対策など実践的な指導を行う。	A	
	希望達成率100%を目指す。	ICT教材を利用した在宅での自学自習や、放課後や週休日における学校での学習環境の充実を図る。	A	
		朝の学習時間の中で、基礎学力の定着、表現力の向上を図る。	A	
		学級担任・教科担当による個人面談・個別指導等を通して、個に応じた効果的な学習方法の定着を指導していく。	A	
		公務員・就職・看護説明会の充実、面接指導、志望理由書の書き方指導等を早期から適宜実施する。	A	
最高学年として、社会人となることを意識した基本的生活習慣の確立を図る。	商業に関する学科においては、希望進路の実現に向け、引き続き上級資格取得を目指した指導を行う。	A		
	保護者の理解を得ながら、登校指導、授業開始時、HR等を利用して、服装・頭髪指導を粘り強く継続実施し、きちんとした身だしなみの徹底に努める。	B		
	時代に応じた情報収集力・思考力・交渉力・判断力を高め、卒業後を意識した礼法指導、生活指導を徹底する。	B		

※ 評価基準 A: 充分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない